

たまねぎ（病害説明）

べと病(糸状菌)

(生態と症状)

- ① 病原菌は、土壌中の卵胞子や被害残渣内で菌糸の形で越冬し、分生子を生じて空気伝染する。秋季に卵胞子や分生子で伝染し、発病株は衰弱又は枯死するものが多いが、一部は冬期間に株全体に菌糸が増殖して、春に全身感染株(越冬罹病株)となり、二次感染株の伝染源となる。
- ② 越冬罹病株は、葉色が淡黄緑色で光沢を失い、草丈も低く横に湾曲したような株になり葉全体に白色又は暗褐色のカビを生じる。
- ③ 二次感染株は、葉や花茎に発生し、楕円形～紡錘形で黄色を帯びた大型病斑を形成し、白色又は暗紫色のカビを生じる。発病葉は、病斑部分から折れやすくなり、アルタナリア属菌等の二次寄生により枯死に至る。
- ④ 分生子形成及び発芽侵入は15℃前後が最適であり、多湿条件が重なると多発する。

(防除)

- ① 苗床で感染した苗は、本圃への定植を避ける。
- ② 畦は傾斜に平行に作るなど雨水の塞き止めを防ぐとともに、暗渠や明渠(額縁)排水等の排水対策を行う。
- ③ 苗床では薄まきして肥料過多にならないようにする。
- ④ 適正な肥培管理に努め、窒素肥料の過用を避ける。
- ⑤ 一度発病すると抑えることは難しいため、定期的な予防散布を行う。
- ⑥ 潜在感染をするため、好適条件の前には治療効果のある剤を散布する。
- ⑦ 収穫後に被害葉を圃場外に持ち出し処分する。

白色疫病(糸状菌)

(生態と症状)

- ① 主に葉に発生する。初め中央部付近に不整形で周縁がやや不鮮明な1～3cmの暗緑色、水浸状の病斑を形成する。のちに拡大して、青白色、油浸状の病斑となり、病斑部を内側にして折れ曲がり、葉は下垂してこより状に先枯れする。病斑が古くなると白色～灰白色になり、健全部との境は明瞭となる。
- ② 株全体に発病すると、ほとんどの葉が白色の葉枯れ状となり、玉肥大が阻害される。
- ③ 2月上旬～3月の半月気温が12～13℃で多雨な場合に発生が多く、半月当たり降水量が30mm以上となると進展が著しい。
- ④ 菌糸の生育適温は15～20℃である。
- ⑤ 土壌伝染する。

(防除)

- ① 畦は傾斜に平行に作るなど雨水の塞き止めを防ぐとともに、暗渠や明渠(額縁)排水等の排水対策を行う。
- ② 苗床では薄まきして肥料過多にならないようにする。
- ③ 発生の多い圃場では連作を避ける。
- ④ 一度発病すると抑えることは難しいため、定期的な予防散布を行う。
- ⑤ 潜在感染をするため、好適条件の前には治療効果のある剤を散布する。
- ⑥ 収穫後に被害葉を圃場外に持ち出し処分する。

たまねぎ（病害説明）

灰色腐敗病（糸状菌）

（生態と症状）

- ① 病原菌が、立毛中の下位葉の葉鞘部から侵入し、地際部以下で発病する。
- ② 生育期に下葉から2～3枚目の葉がやや黄色に変色し、軟化、下垂する。地際部から下の球部は赤褐色に変色し、白色粉状の菌叢を生じ、分生子をおびただしく形成する。発病が進むと、葉が鮭肉色～白色に変色し、萎凋枯死する。
- ③ 特に、貯蔵中の球で多発する。冷蔵中での被害鱗茎は、形がやや縦長になり、肩部の表面に不整形の大型黒色菌核が連なって形成される。菌核上とその周辺の外皮上や間に灰色のカビや分生子を密に形成する。
- ④ 立毛中の1～3月の多雨や収穫前の浸冠水、収穫時期と梅雨時期が重なった場合や、収穫後も陰湿な気象条件が続く場合に多発する。
- ⑤ 病原菌の最適な菌糸伸長及び分生子形成温度は約25℃である。

（防除）

- ① 曇天日の収穫は避ける。
- ② 通気性のよい場所に貯蔵する。
- ③ 適正な肥培管理に努め、窒素肥料の過用を避ける。
- ④ 高畦とし浸冠水を防ぐ。
- ⑤ 一度発病すると抑えることは難しいため、定期的な予防散布を行う。
- ⑥ 潜在感染をするため、好適条件の前には治療効果のある剤を散布する。

苗立枯病（糸状菌）

（生態と症状）

- ① 発芽直後の本葉1～2葉の時期に発生し、葉先が黄化し、地際部が青白く軟化してくびれ及び倒伏枯死する。
- ② 葉身のみ枯死する場合もある。
- ③ 高温多湿条件下で発生しやすく、多湿時には被害株の株元付近に褐色くもの巣上の菌糸がみられることがある。
- ④ 病原菌の生育適温は25～30℃である。
- ⑤ 本菌は、土壌中の比較的浅いところに存在し、土壌中の未分解有機物上で腐生的に増殖しながら生息している。

（防除）

- ① 苗床の土は消毒した土を使用する。
- ② 育苗トレイは地面に直接触れないように置く。
- ③ 多湿にならないよう排水に努める。
- ④ 床土には、生わら等の未熟な有機質資材の施用を避ける。

たまねぎ（病害説明）

ボトリチス葉枯症（灰色かび病、小菌核腐敗病（糸状菌））

（生態と症状）

- ① 苗床及び本圃の両方で発生する。
- ② 寒冷期には、葉身及び花茎に汚白色、円形～楕円形の輪郭が明瞭な陥没小斑点を生じる。
- ③ 葉身に多数の病斑が生じると急速に萎凋、枯死する。
- ④ 4月以降に葉身、花梗及び小花梗に汚白色で長楕円形～紡錘系形のややかすれた病斑を形成する。
また、灰白色のすじ状の病斑を形成することもある。
- ⑤ 春季及び秋季に降雨が続く場合に発生が多く、特に低気圧や前線の通過による強風前後に多発しやすい。
- ⑥ 灰色かび病菌の大型分生子の形成適温は約20℃であり、小菌核腐敗病菌は約15℃である。また、両病原菌ともに、最適な菌糸生育は約24℃である。

（防除）

- ① 苗床で感染した苗は、本圃への定植を避ける。
- ② 排水の悪い圃場では、暗渠や明渠（額縁）排水等の排水対策を行う。
- ③ 堆肥や緩効性肥料を施用して草勢を強健に栽培する。
- ④ 発生初期からの防除を徹底する。特に、降雨が続くと発病が増加するので注意する。

軟腐病（細菌病）

（生態と症状）

- ① 鱗茎の肥大期頃からみられはじめ、下位葉の葉鞘部や葉鞘基部が灰白色～淡褐色に変色し、のちに軟化して葉が倒伏する。
その後、病徴は鱗茎部に達し、表層から軟化腐敗して軟腐臭といわれる悪臭を放つ。
- ② 病原菌は、葉の分けつ部や根部切断面及び害虫の食害痕等の傷口から侵入する。
- ③ 排水不良の圃場を好む。
- ④ 5月以降に発病が多くなり、収穫後、貯蔵中又は輸送中に腐敗が増加する。
- ⑤ 生育適温は28～34℃の高温であり、長雨の続くような湿潤気味な気候を好む。

（防除）

- ① 曇天日の収穫は避ける。
- ② 通気性のよい場所に貯蔵する。
- ③ 畦は傾斜に平行に作るなど雨水の塞き止めを防ぐとともに、暗渠や明渠（額縁）排水等の排水対策を行う。
- ④ 高畦とし浸冠水を防ぐ。
- ⑤ 窒素過多になると感染しやすくなるため、適切な施肥を行う。
- ⑥ 発病後は防除が難しくなるため、予防散布を基本とする。
- ⑦ アザミウマ類やヨトウムシ類等の害虫防除を行う。

たまねぎ（病害説明）

腐敗病（細菌病）

（生態と症状）

- ① 葉身に暗緑色の小斑点が多数現れ、のちに肥大しケロイド状の病斑となる。病斑部はやがて上下に発展し、葉鞘及び葉鞘基部に達して植物体は枯死する。
- ② 葉鞘、葉鞘基部及び鱗茎に発病すると淡桃色～褐色の病斑に変色し、葉脈に沿って上下に進展して健全部との境が波状の軟化腐敗症状を呈する。
- ③ 軟腐病のように悪臭は伴わない。
2種の病原細菌が関与するが、いずれも20～23℃前後で発病する。
早生マルチ栽培での発生が多い。

（防除）

- ① 育苗床は、発病跡地や野菜連作地を避ける。
- ② 畦は傾斜に平行に作るなど雨水の塞き止めを防ぐとともに、暗渠や明渠（額縁）排水等の排水対策を行う。
- ③ 高畦とし浸冠水を防ぐ。
- ④ 適正な肥培管理に努め、窒素肥料の過用を避ける。
- ⑤ 発病が予想される圃場では、2月頃から予防散布を行う。
- ⑥ 春季の強風の前後に薬剤を臨機的に散布し予防に努める。

りん片腐敗病（細菌病）

（生態と症状）

- ① 初め葉身基部が黄褐色に腐敗し、後に葉身全身が腐敗枯死する。
- ② 腐敗は葉鞘からりん茎にも進展し、りん茎の外皮付近あるいは心部より外側のりん片1～数枚が上部から黄褐色に腐敗する。
軟腐病のように悪臭は伴わない。

（防除）

- ① 育苗床は、発病跡地や野菜連作地を避ける。
- ② 畦は傾斜に平行に作るなど雨水の塞き止めを防ぐとともに、暗渠や明渠（額縁）排水等の排水対策を行う。
- ③ 高畦とし浸冠水を防ぐ。
- ④ 適正な肥培管理に努め、窒素肥料の過用を避ける。
- ⑤ 発病が予想される圃場では、2月頃から予防散布を行う。
- ⑥ 春季の強風の前後に薬剤を臨機的に散布し予防に努める。

たまねぎ（虫害説明）

アザミウマ類

（生態）

- ① ネギアザミウマが主体である。
- ② 葉を加害し、白いかすれ状の食害痕が残る。生育初期に被害を受けると生育不良となり、枯死する場合もある。
- ③ 多発すると、玉肥大が妨げられ小玉が多くなり減収する。
- ④ 生育初期に食害を受けると貯蔵中における腐敗病の発生要因となる場合がある。
- ⑤ 定植時期の9月より発生し、気温低下に伴いいったん収束するものの、2月以降気温の上昇に伴い被害が増加する。
- ⑥ 冬でも休眠せず1年中被害が見られる。特に、暖冬年は越冬虫が増加するため、発生が収束せず被害が増大する。

（防除）

- ① 多発すると防除が困難になるため、発生初期防除に努める。
- ② 発育ステージによって有効薬剤が異なるので、薬剤の選択に注意する。
- ③ 圃場内及び周辺の除草を徹底する。

ネギハモグリバエ

（生態）

- ① 成虫は2mmほどで胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色となる。
- ② 成虫は産卵管で葉の表面に小さな孔を縦に連続して開け、にじみ出る汁液を摂取する（吸汁痕）。
- ③ 幼虫は葉に潜孔し葉肉部を食害し、白色で蛇行した線状の食害痕を残す。
- ④ 成熟した幼虫は葉から脱出し、土中で蛹になる。
- ⑤ 発育適温は20～25℃であり、春や秋に発生が多い。

（防除）

- ① 発生して時間が経過すると薬剤の効果が低下するため、初期防除を徹底する。
- ② 薬剤が直接かからないので、吸汁痕や食害痕が見られたら速やかに散布する。

たまねぎ（虫害説明）

ヨトウムシ類(シロイチモジヨトウ・ハスモンヨトウ)

（生態）

- ① シロイチモジヨトウは、県北では1年中見られ、特に定植時期の9月か11月にかけて多発する。
ハスモンヨトウは、発育適温は25℃前後であり、特に定植時期の9月から10月にかけて発生が多い。
上記2種ともまとまった雨がでない乾燥した気候の際に多発する傾向にある。
- ② シロイチモジヨトウは、葉の内側から加害する。葉肉のみ加害し表皮は残るため、加害痕は白い膜状となる。
ハスモンヨトウは若齢～中齢期は葉の表面を削るように加害する。シロイチモジヨトウとは異なり加害痕は白い膜状とはならない。
老齢期になると葉全体を加害する。

（防除）

- ① 薬剤感受性の発達が著しいため、ローテーション防除をしっかりと行う。
- ② 中・老齢幼虫になるにしたがって薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除する。
- ③ 早期発見や発生状況の把握のため、フェロモントラップ調査結果を活用する。
- ④ 交信攪乱剤による密度抑制は有効であるが、まとまった面積への導入が必要である。
- ⑤ ジアミド剤に対し感受性低下事例があるため、効果が劣る場合は異なる作用機構分類の薬剤を使用する。

たまねぎ（土壌消毒剤）

| 農薬名 | | 毒性 | 適用病害虫 | | | | | | | | | | | 備考 | | | | | |
|------------------|------------------------------|-------------------------|----------|----|-----|-----|------|---------|-------|-------|-----|-----|----|----|--------|----------|--------|----------------------------|---|
| IRAC・FRAC コード | 商品名 | | 一般名(成分名) | 疫病 | 乾腐病 | 黒穂病 | 苗立枯病 | 苗立枯病R※1 | 紅色根腐病 | 黒腐菌核病 | 白絹病 | べと病 | ケラ | | センチュウ類 | ネコブセンチュウ | ネキリムシ類 | ハリガネムシ類 | |
| ① | ② | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8F | キルパー | カーバムナトリウム塩液剤 | 普 | | | | ● | | | | | | | | | | ※2 | | |
| | | | 普 | ● | | | | | ● | | | | | | | | | ※3 | |
| | | | 普 | ● | | | | | | | | | | | | | | | ※4 |
| | | | 普 | | | | | | | | | | | | | | | | ※4 使用目的：前作の古株枯死、アザミウマ類・コナジラミ類・ネコブセンチュウ・ネグサレセンチュウ等の蔓延防止 |
| | | | 普 | | | | | | | | | | | | | | | | ※5 使用目的：前作の古株枯死、アザミウマ類等の蔓延防止 |
| 8B | クロールピクリン | クロールピクリンくん蒸剤 (99.5%) | 劇 | ● | | | ● | | | | | | ● | ● | | ● | ● | ※6 使用目的：クロバネキノコバエ類の蔓延防止 | |
| 8B | ドロクロール クロピク80 ドジョウピクリン | クロールピクリンくん蒸剤 (80%) | 劇 | | | | ● | | | | | | | | | | | | |
| 8F | バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤 | ダゾメット粉粒剤 | 劇 | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | | | | ● | | | | |

- ※1 「苗立枯病R」はリゾクトニア属菌による苗立枯病
- ※2 積み上げた土壌表面に散布し、直ちに被覆
- ※3 土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆
- ※4 被覆内で水で希釈し土壌表面に散布または灌水
- ※5 水で希釈し土壌表面に散布または灌水
- ※6 集積した残渣物散布し被覆

たまねぎ（種子、苗消毒剤）

| 農薬名 | | 毒性 | 適用病害虫 | | | | | | | 備考 | |
|------------------|--------------|-------------------------|----------|-----|-------|-------|--|--|--|----|-----------------------------------|
| IRAC・FRAC コード | 商品名 | | 一般名(成分名) | 乾腐病 | 黒腐菌核病 | 灰色腐敗病 | | | | | |
| ① | ② | | | | | | | | | | |
| 1 | トップジンM水和剤 | チオファネートメチル水和剤 | 普 | | ● | | | | | | ※1 5分間苗根部浸漬 |
| 1 | ベンレート水和剤 | ベノミル水和剤 | 普 | ● | | | | | | | ※2 3分間苗根部浸漬 ※2 育苗培土混和 ※2 灌注 |
| 3 | トリフミン水和剤 | トリフルミゾール水和剤 | 普 | ● | | | | | | | 5分間苗根部浸漬 苗床灌注 |
| 11 | ファンタジスタ顆粒水和剤 | ピリベンカルブ水和剤 | 普 | | | ● | | | | | 5分間苗根部浸漬 5分間セル苗浸漬 |
| 11 | 7 シグナムWDG | ①ピラクロストロビン ②ボスカリド水和剤 | 普 | | | ● | | | | | 5分間苗根部浸漬 5分間セル苗浸漬 |
| 12 | セイビアーフロアブル20 | フルジオキシニル水和剤 | 普 | | ● | ● | | | | | 5分間苗根部浸漬 5分間セル苗浸漬 |
| 29 | フロンサイドSC | フルアジナム水和剤 | 普 | ● | | | | | | | 5分間苗根部浸漬 |

※1 育苗期～本圃において、本剤を使用した場合は、ベノミルを含む農薬は収穫終了後まで使用できない。

※2 育苗期～本圃において、本剤を使用した場合は、チオファネートメチルを含む農薬は収穫終了後まで使用できない。

たまねぎ（殺菌剤）

| 農薬名 | | 毒性 | 適用病害虫 | | | | | | | | | | | 備考 | | |
|------------------|-----|--------------|------------------------------|------|-------|-----|-----|------|------|------|-----|-------|-------|----|-----|-------------|
| IRAC・FRAC コード | 商品名 | | 一般名(成分名) | 黒かび病 | 黒腐菌核病 | 黒斑病 | さび病 | 小菌核病 | 白色疫病 | 苗立枯病 | 軟腐病 | 灰色かび病 | 灰色腐敗病 | | 腐敗病 | べと病 |
| ① | ② | | | | | | | | | | | | | | | |
| M01 | | コサイド3000 | 銅水和剤 | | | | | | | ● | | | | | ● | |
| M01 | | ヨネポン水和剤 | ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤 | | | | | | | ● | ● | | | ● | | |
| M03 | | ジマンダイセン水和剤 | マンゼブ水和剤 | | | ● | ● | ● | | | ● | ● | | ● | | 無人航空機散布登録あり |
| M03 | | ペンコゼブ水和剤 | マンゼブ水和剤 | | | ● | | | | ● | ● | | | ● | | |
| M03 | 4 | リドミルゴールドMZ | ①マンゼブ ②メタラキシルM水和剤 | | | | | ● | | | ● | ● | | ● | | |
| M04 | | オーソサイド水和剤80 | キャプタン水和剤 | | | | | ● | ● | ● | ● | | | | | |
| M05 | 4 | フォリオゴールド | ①TPN②メタラキシルM水和剤 | | | | | ● | | | ● | | | ● | | |
| M05 | | ダコニール1000 | TPN水和剤 | | | | | ● | | | ● | | | ● | | |
| M07 | | ベルコート水和剤 | イミノクタジナルベシル酸塩水和剤 | | | | | ● | | | ● | ● | | | | |
| 1 | | トップジンM水和剤 | チオファネートメチル水和剤 | | | | | ● | | | | ● | | | | ※1 |
| 1 | | ベンレート水和剤 | ベノミル水和剤 | ● | | | | | | | | ● | ● | | | ※2 |
| 1 | 10 | ゲッター水和剤 | ①チオファネートメチル ②ジエトフェンカルブ水和剤 | | | | | | | | | ● | | | | ※1 |
| 1 | 10 | ニマイバー水和剤 | ①ベノミル ②ジエトフェンカルブ水和剤 | | | | | | | | | ● | ● | | | ※2 |
| 2 | | ロブラール水和剤 | イプロジオン水和剤 | | | ● | | | | | ● | ● | | | | |
| 2 | | スミレックス水和剤 | プロシミドン水和剤 | | | | | ● | | | ● | ● | | | | 無人航空機散布登録あり |
| 3 | | オンリーワンフロアブル | テブコナゾール水和剤(20%) | | | | | | | | ● | ● | | | | 無人航空機散布登録あり |
| 3 | | シルバキュアフロアブル | テブコナゾール水和剤(40%) | | | | | ● | | | ● | ● | | | | |
| 3 | | ワークアップフロアブル | メトコナゾール水和剤 | | | | | | | | ● | ● | | | | |
| 7 | | アフェットフロアブル | ペンチオピラド水和剤 | | ● | | | ● | | | ● | ● | | | | |
| 7 | | パレード20フロアブル | ピラジフルミド水和剤 | | ● | | | ● | | | ● | ● | | | | 無人航空機散布登録あり |
| 7 | | カナメフロアブル | インピルフルキサム水和剤 | | | | | ● | | | ● | ● | | | | 無人航空機散布登録あり |
| 11 | | アミスター20フロアブル | アゾキシストロビン水和剤 | | | | | | | | ● | ● | | ● | | 無人航空機散布登録あり |
| 11 | | ストロビーフロアブル | クレソキシムメチル水和剤 | | | | | | | | ● | ● | | | | 無人航空機散布登録あり |
| 11 | | ファンタジスタ顆粒水和剤 | ピリベンカルブ水和剤 | | | | | ● | | | ● | ● | | | | |
| 11 | | メジャーフロアブル | ピコキシストロビン水和剤 | ● | | | | ● | | | ● | ● | | ● | | 無人航空機散布登録あり |

※1 育苗期～本圃期に本剤を使用した場合、ベノミルを含む農薬は収穫終了後まで使用できない。

※2 育苗期～本圃期に本剤を使用した場合、チオファネートメチルを含む農薬は収穫終了後まで使用できない。

たまねぎ（殺菌剤）

| 農薬名 | | | 毒性 | 適用病害虫 | | | | | | | | | | | 備考 | |
|------------------|-----------|----------------------------|--------------------------------|-------|-------|-----|-----|------|------|------|-----|-------|-------|-----|----|----------------|
| IRAC・FRAC コード | 商品名 | 一般名(成分名) | | 黒かび病 | 黒腐菌核病 | 黒斑病 | さび病 | 小菌核病 | 白色疫病 | 苗立枯病 | 軟腐病 | 灰色かび病 | 灰色腐敗病 | 腐敗病 | | べと病 |
| 11 | スクレアフロアブル | マンデストロピン水和剤 | 普 | | | | | ● | | | ● | ● | | | | |
| 11 | 7 | シグナムWDG | ①ピラクロストロビン ②ボスカリド水和剤 | 普 | | | | ● | ● | | ● | ● | | ● | | |
| 12 | | セイビアーフロアブル20 | フルジオキシニル水和剤 | 普 | | | | ● | | | ● | ● | | | | |
| 21 | | ランマンフロアブル | シアゾファミド水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 21 | 27 | ダイナモ顆粒水和剤 | ①アミスルブロム ②シモキサニル水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 21 | 49 | ゾーベックエンテクタSE | ①アミスルブロム ②オキサチアピプロリン水和剤 | 普 | | | | | | | | | | | ● | 無人航空機散布登録あり |
| 24 | M01 | カスミンボルドー | ①カスガマイシン②銅水和剤 | 普 | | | | | | ● | | | | | | |
| 27 | 11 | ホライズンドライフロアブル | ①シモキサニル ②ファモキサドン水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 27 | 40 | ベトファイター顆粒水和剤 | ①シモキサニル ②ベンチアバリカルバイソプロピル水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 29 | | フロンサイドSC | フルアジナム水和剤 | 普 | | | | | ● | | ● | ● | | ● | | フォームスプレーヤー登録あり |
| 31 | | スターナ水和剤 | オキシロニック酸水和剤 | 普 | | | | | | ● | | | | | ● | |
| 40 | | レーバフロアブル | マンジプロパミド水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 40 | M01 | フェスティバルC水和剤 | ①ジメトモルフ②銅水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 40 | M05 | プロポーズ顆粒水和剤 ワイドヒッター顆粒水和剤 | ①ベンチアバリカルバイソプロピル ②TPN水和剤 | 普 | | | | | ● | | ● | | | | ● | |
| 40 | M03 | カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤 | ①ベンチアバリカルバイソプロピル ②マンゼブ水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 41 | 25 | アグリマイシン-100 | ①オキシテトラサイクリン ②ストレプトマイシン水和剤 | 普 | | | | | | ● | | | | | | |
| 43 | 40 | ジャストフィットフロアブル | ①フルオピコリド ②ベンチアバリカルバイソプロ | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | 無人航空機散布登録あり |
| 45 | 40 | ザンプロDMフロアブル | ①アメトクトラジン ②ジメトモルフ水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | 無人航空機散布登録あり |
| 49 | 40 | オロンディスウルトラSC | ①オキサチアピプロリン ②マンジプロパミド水和剤 | 普 | | | | | | | | | | | ● | 無人航空機散布登録あり |
| U17 | | ピシロックフロアブル | ピカルブトラゾクス水和剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | 鱗茎類登録 |
| U18 | | バリダシン液剤5 | バリダマイシン液剤 | 普 | | | | | | ● | | | ● | | | |

たまねぎ（殺虫剤）

| 農薬名 | | 商品名 | 一般名(成分名) | 毒性 | 適用病害虫 | | | | | | | | | | | 備考 |
|------------------|----|--------------------|-------------------------|----|--------|---------|--------|----|------|----------|-----------|------|--------|---------|------|------------------------------|
| IRAC・FRAC コード | | | | | アザミウマ類 | ネギアザミウマ | アブラムシ類 | ケラ | コオロギ | コガネムシ類幼虫 | シロイチモジヨトウ | タネバエ | タマネギバエ | ハモグリバエ類 | ネギコガ | |
| ① | ② | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1B | | スミチオン乳剤 | MEP乳剤 | 普 | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 1B | | エルサン乳剤 | PAP乳剤 | 劇 | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 1B | | マラソン乳剤 | マラソン乳剤 | 普 | ● | ● | | | | | ● | | | | | |
| 1B | | ダイアジノン乳剤40 | ダイアジノン乳剤 | 劇 | ● | ● | | | | ● | | | ● | | | |
| 1B | | ダイアジノン粒剤5 | ダイアジノン粒剤 | 普 | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | |
| 1B | | トクチオン乳剤 | プロチオホス乳剤 | 普 | ● | | | | ● | | | | ● | | | 無人航空機散布登録あり ブームスプレーヤー登録あり |
| 3A | | アグロスリン乳剤 | シペルメトリン乳剤 | 劇 | ● | | | | ● | | | | ● | | | 無人航空機散布登録あり |
| 3A | | アディオン乳剤 | ペルメトリン乳剤 | 普 | ● | | | | | | | ● | | ● | | |
| 3A | | ガードベイトA | ペルメトリン粒剤 | 普 | | | | | | | | | | ● | | |
| 3A | 15 | ビリーブ水和剤 | ①シハロトリン ②ジフルベンズロン水和剤 | 劇 | | ● | | | | | | | | | | |
| 4A | | モスピラン顆粒水溶剤 | アセタミプリド水溶剤 | 劇 | ● | | | | | | | | | | | |
| 5 | | ディアナSC ラディアントSC | スピネトラム水和剤 | 普 | ● | | | | ● | | | | ● | ● | | 無人航空機散布登録あり |
| 6 | | アニキ乳剤 | レピメクチン乳剤 | 普 | | | | | ● | | | | | | ● | |
| 6 | | アグリメック | アバメクチン乳剤 | 劇 | ● | | | | | | | | ● | | | 無人航空機散布登録あり |
| 9B | | コルト顆粒水和剤 | ピリフルキナゾン水和剤 | 普 | | ● | | | | | | | ● | | | |
| 14 | | リーフガード顆粒水和剤 | チオシクラム水和剤 | 劇 | | ● | | | | | | | ● | | | |
| 21A | | ハチハチ乳剤 | トルフェンピラド乳剤 | 劇 | ● | | | | | | | | ● | | | べと病に登録あり |
| 22B | | アクセルベイト | メタフルミゾン粒剤 | 普 | | | | | | | | | | ● | | |
| 28 | | ベネビアOD | シアントラニリプロール水和剤 | 普 | ● | | | | ● | | ● | | | | ● | 無人航空機散布登録あり |
| 30 | | グレーシア乳剤 | フルキサメタミド乳剤 | 普 | ● | | | | | | ● | | | | | 鱗茎類登録 無人航空機散布登録あり |
| 34 | | ファインセーブフロアブル | フロメトキン水和剤 | 劇 | ● | | | | | | | | | | | |
| UN | | プレオフロアブル | ピリダリル水和剤 | 普 | | ● | | | ● | | | | | ● | | 無人航空機散布登録あり |